

支店長の わがまち紹介 第84回



母子島遊水地から見るダブルダイヤモンド筑波

筑西市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。

今回は茨城県筑西市です。筑西支店長が筑西市長 須藤茂氏にお話を伺いました。

筑西市は第20回(2015年3月)の本コーナーで紹介させていただきました。改めまして、筑西市の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。

(取材日:2020年3月18日)



筑西市長 須藤 茂氏



筑西支店長 助川 喜昭

■ 水と緑と人が共生するまち

筑西市は、広がる田園のなか、東に筑波山を望み、鬼怒川・大谷川・勤行川・小貝川・桜川という5つの一級河川が南北に流れる美しい景観をもったまちです。

このような豊かな自然と共生する市民は、人間性が大変豊かで、私は本市が最も誇るべき財産は人財であると感じています。

しかし、わが国を襲った高齢化・人口減少の波は、

想定以上のスピードで本市にも訪れ、平成17年の合併以降、人口は減少し続けています。

そのため、私は市長就任以降、「人口10万人死守」を目標に掲げ、出生数と社会人口の増加に向けた数多くの施策を展開してきました。

■ 若者・子育て世代が暮らしやすい環境を整備

人口を増加させるためには、若い世代が働きながら子どもを育てることのできる環境が必要です。そこで、私は市長に就任して以降、15の企業を誘致し、「働く場所」を確保しました。

また、認定こども園の新設をはじめ、小規模保育事業の認可などにより、受け入れ定員の増加に努めるとともに、延長保育や一時預かり事業、子育て支援団体への補助金交付、子育て支援センターの開設などに次々と取り組み、「働きながら子育てしやすい環境」を整備しました。

さらに、保育料については、第1子(3歳未満)の最高月額を4万円、第2子(3歳未満)以降は無料にするなど、近隣市町村に比べて低い金額に設定しています。そのほか、放課後児童クラブの数を31か所にまで増やし、各指導員の活動支援のもと、遊びや生活の場を提供しています。

住環境の面では、平成27年から「筑西市若者・子育て世代住宅取得奨励金事業」の運用を開始し、本市に住宅(新築・中古)を取得して定住する若者世帯や子育て世帯に、1世帯当たり50万円を交付しています。

また、平成29年からは更なる定住促進支援策として「筑西市多世代同居住宅取得等奨励金事業」の運用を開始しました。子世帯又は孫世帯が市外から転入し、親世帯と同居するために住宅(新築・中古)を取得し、又は家屋を増改築した場合には、その家屋の所有者に対して20万円を交付しています。

この2つの奨励金は、条件さえ満たせば併用が可能なため、最大70万円の助成を受けることができます。そのため、年間で約200件、これまでに約800件の利用がありました。

このような取組により、人口の自然減は続いているものの、最近では社会増になることもあり、大変嬉しく感じています。

■ 誕生祝金で出産費用をサポート

健康保険から支払われる「出産育児一時金」の金額は約40万円です。しかし、実際の出産では、平均60万円の費用が掛かると言われています。そのため、妊婦やそのご家族が残りの20万円を負担しなければなりません。

そこで、本市では、令和2年4月1日以降に誕生したお子さまに対し、1人当たり20万円の祝金を贈呈することで、出産時に掛かる費用をほぼ0円に抑えられるようにしました。

私は議員秘書時代から、「出産費用を助成して、若い世代を助きたい」という強い思いがありました。もちろん、子どもを産む産まないは、個人やご家族の意思で決めることです。しかし、金銭的な理由で子どもの誕生が望めないのであれば、その悩みを解決してあげたいと思っています。今回、その思いをやっと形にすることができ、非常に嬉しく感じています。

出産祝金や祝品の支給による「子育て支援」は全国各地で行われています。しかし、多くの祝金は、第2子以降、段階的に増額する場合が多く、本市のように第1子から20万円を一度に支給する自治体は他にありません。さらに、本市では人数制限もないため、第2子以降も1人20万円を支給します。

また、祝金以外にも場所を選ばずに授乳できる授乳服などを提供¹しており、お母さん方に好評です。

1 妊娠20週以降の妊婦に、①産前産後ブラジャー及びマタニティ兼用授乳服セット又は②マザーズバックをプレゼント

■ 保護者の負担軽減と快適な学校生活のために

本市は、10年ほど前から、子どもの入学時に掛かる費用負担の軽減を目的に、毎年1~2月頃、本市の小学校に入学予定の新1年生全員に、4万円相当の本皮製ランドセルを贈呈しています。

小学生については、令和2年度(令和3年度入学予定者)から更なる費用負担の軽減策として、ランドセルに加え、文具や水筒など、2万円相当の入学祝品を贈呈する予定です。

温暖化が進み、私が学生だった頃に比べると、夏の暑さは非常に厳しいものとなっています。本市では、子ども達に保冷・保温力の高い水筒を贈呈することで、誰もが夏の暑い日には冷たい飲み物で熱中症を予防し、冬の寒い日には温かい飲み物で暖かく過ごしてほしいと考えています。

また、中学生についても同様に、令和2年度(令和3年度入学予定者)から2万円相当の入学祝品を贈呈する予定です。私が市長に就任した翌年から、自転車通学時の安全確保を目的に、ヘルメットの着用を義務化しました。それに伴い、保護者の経済的負担軽減を目的に、これまでは購入代金の一部(1人当たり2,000円)を補助してきましたが、ヘルメットについても入学祝品の対象としました。そのほか、防犯ブザーや文具、辞書などを入学祝品として贈呈する予定です。

今後も、保護者の経済的負担軽減と子ども達の快適な学校生活のため、各事業を推進してまいります。



ランドセルをはじめとする入学祝品を贈呈

■ 庁舎から笑顔を発信

平成29年2月13日、本市では、効率的な行政運営と市民の利便性の向上のため、下館駅北口に立地する「スピカビル」内に市役所本庁舎機能を移転しました。

これを機に、スピカビルが「市民が日常的に集い、世代を超えて多くの市民から親しまれるまちのシンボル」となることを目指し、市役所1階及び地下に、キッズコーナー「ちっくんひろば」を開設しました。

ちっくんひろばは、アメリカから取り寄せた全長10.5m、高低差約4.7mもの大きなトンネル型滑り台のほか、約1,000個のボールが入ったボールプール、高さ2mのボルダリング(壁登り)、水ペンを使ったお絵かきボード、馬型玩具、記念撮影用のちっくんパネル、ソフトプレイガーデンハウス、知育玩具のループコースター、100冊を超える絵本など、数多くの遊具が揃った施設です。

今の時代、衛生面を理由に子どもを砂場で遊ばせることをためらう保護者は多いと思います。それに比べ、ちっくんひろばは市役所内にあるため、犬や猫などの出入りもなく衛生的です。また、雨の日でもいつもどおり遊ぶことができます。

そのほか、身長・体重計やおむつ交換台、授乳スペース、簡易トイレもあるため、安心してご利用いただけます。



ちっくんひろばの様子

ちっくんひろばは、「地域みんなで子育てしていこう」という思いから開設しており、本市以外で生活する方も無料でご利用いただけます。そのため、毎日たくさんの親子が訪れ、現在までの来場者数は、延べ7万4千人にも上っています。

しかし、残念ながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、現在は閉鎖²しています。一日でも早く沈静化し、また庁舎内にたくさんの子ども達の笑顔があふれることを願っています。

■ 人財を活かしてまちを守る

全国にある「道の駅」は、現在1,173か所³に上り、年間の平均売上は約3億円とも言われています。特に、栃木県の「道の駅しもつけ」や群馬県の「道の駅川場田園プラザ」などでは、非常に素晴らしい業績を収めています。

本市もそれに追随したいと、令和元年7月、「道の駅グランテラス筑西」をオープンしました。オープンしてからまだ8か月ですが、非常に業績が良く、新型コロナウイルス感染症の影響で休業などもありましたが、1年目で先ほどの2つの道の駅に近い売上を実現することができると予想しています。

この成功は、尽力してくれた本市の職員や関係者の方々のおかげです。私はいつも「1人では何もできない」と感じています。たとえ、私が最初に言い出したことであつたとしても、成功へと導いたのは、熱心に取り組んだ職員であり、ご協力いただいた議員の方々、そして、見守ってくれた市民です。

先にも述べたように、本市が誇る財産は人財です。そしてその人財である職員は、常に私を力強く支えてくれています。そのため、テープカットのような記念すべきイベント時には、私ではなく尽力してきた方々をお願いしています。

また、本市には、約3,000人の外国人が在住しているため、令和2年度から、英会話が堪能な職員を市役所の各階に配置し、外国人でも安心して来庁していただけるようにする予定です。さらに、今後は本市で育った外国人の職員採用なども検討していきたいと思っています。

平成30年9月27日、本市では、県内市町村初の「筑西市手話言語条例」を制定しました。これは、手話が堪能な人材を採用したことがきっかけです。その職員には、市民の案内だけでなく、他の職員への手話指導もお願いしています。

その甲斐あって、現在では、数名の職員が資格を取得しています。令和2年度からは、英会話が堪能な職員同様、各階に手話ができる職員を配置する予定です。これにより、「手話が言語であることの認識に基づき、手話への理解を深め、全ての市民の人権が守られ、地域で支え合い、お互いの個性と人格を尊重し合って共に生きる社会」を実現したいと考えています。

このように、庁舎内には多くの優秀な職員が在職しています。今後も職員とともにまちを守り、「人口10万人死守」に挑戦し続けていきたいと思っています。

■ 筑波銀行に期待することをお聞かせください

私が自宅近くの筑波銀行を利用してよく感じることは、とても感じの良い笑顔に溢れているということです。どの支店に行っても感じの良い笑顔があり、雰囲気も良いため、職員への教育を含め、銀行のたゆまぬ努力を感じます。

今後は、さらに、低金利での融資を含めた地域企業への支援、預金者への更なるサービスの展開を期待しています。

また、今後、本市が地方債を発行する場合にも、ご協力をお願いします。

写真提供：筑西市